

植物エッセイ

大平 仁一*

里山に咲くヤマシャクヤク

昭和の初めに部落の杉林伐採作業に毎週でた。そんな日がつづき、山はきれいになった。あれから山へ入ってみた。25年がすぎ、草や雑木の生えている林でアケビ (*Akebia quinata*) を取った。甘い味を忘れられない私は時々この草原に入る。地元の人と会う時は「オッス」と言う。時に「カタクリ (*Erythronium japonicum*)」のかわいい花とも会う。

そんな時歩いていた草の中に白い花が少しピンク色になっているシャクヤクを見つけた。よく観察しているとヤマシャクヤクと私なりに思うようになった。だけど美しい花はどことなく私の心をくすぐっていた。恋人に会った気持ちでそっとほほ(花びら)にさわってみた。ほほにうすい紅をぬった恋人「ヤマシャクヤク (*Paeonia japonica*)」はなぜキッスを私にしてくれた。それは小さい虫が飛んで出てきたのだった。不思議な出来事があった。ヤマシャクヤクは真っ白の花だと思っていた。いつも純情乙女の花と思っていたのだが、今は少し変わっていた。

信州のヤマシャクヤク (*Paeonia japonica*)

櫟ケヤキの植林は共有地から

7年前に部落林の世話人になり、3町歩の奥山に杉や何かを植える話になった。だいたいの方は「杉」と言っていた。その時、私は「ケヤキ」もいいのでは? と皆さんに言うと、1町歩だけ上の方に植えてみては? と、よい答えをもらい、1/3だ

け植えることになった。現場へ面積の調査に行き、「ケヤキ」を植えた。

この山には昔から「ケヤキ」があり、地元では「青ケヤキ」とか「赤ケヤキ」と呼ばれている。このうち「赤ケヤキ」の方がきれいな木として大切に語り継がれている。

また、山の上に行くともめずらしい植物に会い、楽しい。里にはこのところ半夏生ハンゲショウ (*Saururus chinensis*) が白く道行く人を楽しませていた。ドクダミに似ている不思議な植物だ。

美しい鳥と山菜

晴天のきれいな空、杉林には緑のヤマソテツ (コゴミ) がたわわに生えて私を喜ばせてくれた。少しいただきながら急な坂を登っていくと、透き通った緑の集団に会う。「ミヤマイラクサ」であった。奥へ奥へ行くと「タカネチドリ」が「ノビネチドリ」とまちがえるほど美しく私の目に写っていた。

そんな時少し動くものが見えた。ジーンと見てみると初めて見る鳥だった。それはそれは美しく、私の全身に震えが来た。「ヤマドリ」だ。こんな杉山に美しいヤマドリと思うと、見つけたうれしさと同時に自分の中にこの鳥の姿が写っていた。



ヤマドリ

光触媒と花と虫の関係

ある日母ちゃんが造花を買ってきた。1年たった1月、美しくするために外に出して太陽の光に当て

* 大平仁一 〒389-2322 飯山市瑞穂 1166-9

た。雪が少なく、所々に地面が出ていた。早い「フクジュソウ (*Adonis amurensis*)」が土手に咲いていた。

家の中の臭いを消去するために花を買ってきたとの事であった。陽射しに当たる造花を見ていると、小さな虫が飛んできて花につくが、すぐ逃げて行く。しかも一回転して、どの虫も同じだ。私は不思議に思い長く眺めていた。青空で気分のいい日で長く見ると楽しかった。

毛無山頂は宝の山

登山道を私と妻は休みながら歩いて登った。ブナ
の林は美しく、その下にはツバメオモト (*Clintonia
udensis*) が白い花を咲かせている。所々に青い実が
あった。まわりはチシマザサのヤブで動きづらかった。
近くに小川が流れていて、その水を手ですくっ
て飲んだ。ヤナギランが所々に群生していた。少し
進むとスキーのゲレンデがあり、そこに大きな落が
あった。

午後になるとなぜか霧が出てきた。ブナの大木が
霞んで見えた。気分はさみしくなった。頂上の電波
アンテナが近くに見えてきた。足元は草が多く歩
きづらくなり、見るとウツボグサ (*Prunella vulgaris*)
の群生に足を踏み入れていた。ここから南へ下ると
三段の滝へ行くことが出来る。

10年ほど前、私は公民館の役員をしていて、20
人くらいの人とこの三段の滝を登ったことがある。
当時の館長さんがお休みだったので、私が駐在さん
にお願いして銃を持っていってもらった。熊が出る
のだ。でも楽しかった。



ウツボグサ (*Prunella vulgaris*)

サイハイランに魅せられて

里宮のあるうす暗い杉林の中でみつけた花がサイ
ハイランでした。あまり見かけない下向きに咲く花
の姿に、私は自分を重ねていた。この林の空気の重
さに心が病んで少し涙もろくなった。でも、野生の
花たちは生き生きとして、私にすばらしい感動をあ
たえてくれた。

近くにノブキ (*Adenocaulon himalaicum*) が下を向
いて咲いていた。少し歩くとエビネの葉っぱがあち
こちで見え隠れしていた。この林の中はうす暗く花
があまり目立たない。でも私には美しく見えていた。
この林ではやはりサイハイランが一番きれいだった。



サイハイラン・エビネ

北信でめずらしい花に出会う

私の一番の楽しみは植物の花の写真を撮ること、
ブナの大木にかこまれチシマザサが多く湿っている
場所にいくこと。そんな変わった心に自分で自分を
笑う。

好きな山遊びで見る花の中に「帰化植物」の「オ
オブタクサ」や「セイタカアワダチソウ」が多く見
えるようになり悲しく思う。

そんなおり、時々人を案内していく沢の近くに行
くと、めずらしく黄色い花を見つけた。それはまさ
しく私の心に止めていた花で、オオバキスミレ (*Viola
brevistipulata*) だった。近くにユキザサ (*Smilacina
japonica*) もあった。その時はうれしく、心臓がド
キドキした。この場所はシラネアオイの育っている

場所でもあった。



オオバキスミレとユキザサ

雑木林の中で「オニク」に出合った私

飯山の西、斑尾山の裏に大小の湿原がある。ブナの木の中ですごくいい。二酸化チタンやマイナスイオンのたくさん出ている林の中は私の好きな場所で、年に3回は行く。春に2回、秋に1回で、春はワラビ、ヨブスマソウ、タラの芽などの山菜も多い。林の中はなぜか静で、時々聞こえる鳥の鳴き声にいやされていた。そんな時、雑木の根元に何か「キノコ」みたいなものを見つけた。5本あり、茶色で少し香りがした。それにしても変わったものなので図鑑で調べてみた。それが「オニク」という植物でした。私はすごくうれしくなった。漢方薬に良いと聞きました。

今考えると、日本には漢方薬に良い自然食がたくさんある。消毒した野菜より、ただ山や里山のものが人間にはいいのではないかな。

秘境 秋山郷の沼地

水も少ない沼に入ってしまった私は足を引っこめた。すばらしく清い水に心を打たれた。みんな背のひくい草ばかりで、そのなかに紅色で小さな玉のような花が所々に水面に写っていた。これはなんだろうと思い写真に写した。見てみると高山の白いツガザクラにも似ていた。でも大きさが小さい。あとでヒメシャクナゲとわかった。

この地には虫取り草（モウセンゴケ類）も所々に見えていた。私は研究心が湧いていた。でも、障害のある私にはこの場所まで。でもすばらしい場所にいる自分が好きで杖にお礼を言った。ピンク色の蕾が下を向いて私と顔が会い笑っている。



ヒメシャクナゲ (*Andromeda polifolia*)

私の心を動かした「ママコノシリヌグイ」

孫が遊びに来た。蛙を飛びまわっていた。足に草の種をたくさんつけて帰ってきた。「じいちゃん、病い種があるよ」と言う。見ると、たくさんの草の実をつけた足に引っかいたような白いスジをつけていた。「かゆい」と言い、手でガリガリとかいていた。「病い種はどこにあるのだ」と聞くと「そこ」と言い指をさした。見ると「ママコノシリヌグイ」とわかった。「ちょっとそれを少し取って来い」と孫に言った。それを孫の手にこすった。「病（たくさんのトゲ）これがママコノシリヌグイ（継子の尻ぬぐい）という草だぞ」と教えた。

孫は「自分の親に育ててもらってよかったね一僕。でも、知らない他人に育てられる子供がかわいそうだね一」と言った。お勝手のおばあさんの所へ飛んでいき「おれ、おかあちゃんもお父さんもおじいちゃんも本当のおれの親で良かった。おれ幸せだ。」と言ったので、後でおばあ（妻）と私で大笑いした。

でも、今日はすばらしい一日で母ちゃんに感謝状を書いて渡した。ママコノシリヌグイにも感謝し、知らないうちに頭を下げていた。

里山に魅せられて

犬飼地区の山にはヤマユリが咲き、甘柿もたくさんある里であり、この地にクガイソウ（*Veronicastrum japonicum*）が咲く。私は里に咲く花を愛し、この地を愛し、祭りを愛し、もちろんクガイソウも好きだ。畑にノビル（*Allium grayi*）があっちこちに生え、私達に潤いを与えてくれている。ここは昔の人の住む場所であり、現在の若者も住みよい場所でもあり、緑あふれる遊び場所でもあり、今日も小学生が花を持ち学校へ通う姿が見える。みんなカバンに鈴を付

けている。熊よけである。去年は近くの大川へ熊を追い込んで生け捕りにしたらしい。今日はツバメが巣立ち、一羽のおくれっこを親鳥が巣に連れ添っている。この姿に私は人間の学ぶ事が多くある事を学んでいた。



クガイソウ

テンニンソウの花と根に薬種

淡黄色のやさしい花が山道の土手で私達4人を向かえてくれた。葉は長かった。100 mほど進むと滝の音が聞こえてきた。また進むとコンクリートのトンネルがあり、人が通れるくらいの小さな穴に入っていた。その先にはウメバチソウ (*Parnassia palustris*) が土手に咲き、シラヒゲソウ (*Parnassia foliosa*) も咲いていた。

さらにその先につり橋があった。つり橋は下が見えて怖かった。でも渡った。こちらには陽があたるのかテンニンソウ (*Leucosceptrum japonicum*) の姿が見えなかった。7月でもう対岸のミズナラやブナの葉が赤くなっていた。トチバニンジン (*Panax japonicus*) の群生にも会う。

奥へ行き好きな花を見たいと思い少し進むが、皆さん帰ろうと言うので、ゆっくり見渡し引き返す。曲がりくねった道は草で滑った。そばにはニシキギやツリバナの赤い実が見えた。母ちゃんや友人が栃の実に気付き拾いはじめた。あまり沢山あるので拾っているうちに、そこに咲くテンニンソウ (*Leucosceptrum japonicum*) がすごくかわいく思えて、見てその花の心にふれていた。それは薬草であるから。

栃の実も体の悪い所にぬると痛さがとれる。これは私の経験からです。

よく見ると美しい花

棚田のある万仏山に私はうれしさと癒しを感じていた。この部落の入口に松の大木のある丘があり、そこに私の先祖である大平先生の碑がある。その前に水車小屋が動いていて、写真家の人々がよく写しに来ていた。周りは杉や雑木の山でよく熊が出没する。

今日は一人で車いすにのり、外の景色や庭のシャラの白い花にみとれていた。ポストの音がするので誰からの手紙だろうと思いながら、母ちゃんの帰りを待った。

そんな時間に俳句を歌ってみた。

ヤブカラシ栗の穂にもはいあがり

一番きれいに思えた花、それは田の畦に咲くカンゾウやヤブカンゾウだった。畦に咲いている姿はなぜか素朴で道行く人忘れられている。昔は生えぎわの若葉をよく食べたものだった。7月の今、私にはすてきに美しく見えていた。

母ちゃんが帰ってきて、私にハイ手紙だよと持ってきた。上田の友人からだった。早く会いたくなった。手紙にも会いたいと書いてあった。

ナニワズ (夏坊主)

7年ぶりに訪ねる山の林に行くと鹿に会った。相手も私をじーと見つめて動かない。緑の葉がいやに悲しく足元の枯葉の音がさみしく聞こえた。

6月に入るとナニワズが咲きはじめ、あたりが黄色になった。この花に見とれていて、近くのキジに気づかず飛び立つ音にビックリした。ヒメウツギの木やムラサキシキブが少し生えていた。山桜もあり、ヤマユリも見ることがある。白くて美しく私の好みであった。すぐ近くにはカタクリの群生地があり、



ナニワズ

まだ人に知られていなくて安心している。

少し歩くと小さいブナ林があり、私はうれしかった。この山の山頂にはキタゴヨウマツが3本枯れていて私は悲しかった。少し登ると杉林につきあたり、この林の中はうす暗くて気分が悪くなってきた。今はナニワズが増えたことで心が豊かで、帰ったら母ちゃんにも知らせた。誰も知らないこの場所は宝の山である。

春日山城趾と山ユリのつながり

歴史の上杉謙信の居城を訪ねて母ちゃんと2人歩いてみた。毘沙門堂や謙信の墓を見た時悲しくなった。この丘より見る日本海はすばらしく美しかった。そこにはヤマユリ (*Lilium auratum*) が多く植えられているのではないかと。看板には山ユリと書かれていた。近くの生徒らしい。時にピンクもあり、私はササユリかと思った。近くの生徒の心に感心し、妻と話して帰路を急いだ。他にカタクリやユキツバキが多かった。

時に本丸から見る外堀もまたいい。川中島合戦供養塔は人々にやさしい空気と心をもたらししていた。私もその一人でした。

でも、この地にヤマユリが多いのに今一度おどろいた。小学生や、中学生が植物を大切にしている姿に私達長野県民も学ばなければならないと思う。また、子供達に植物の大切さを教えるこの地の人達の心にも感心した。

8月には謙信公祭りが夕やみの中行われ、鉄砲隊の実演はすばらしい。第四土日がいい。

捕虫植物と虫

昔牧場にしていた山の畑はすばらしく広く見渡すかぎり草原で、今は雑草と落が生い茂り緑一色だった。「鳥甲山」のはずれは食虫植物が多かった。以前は私も蝮(マムシ)に会った。くずれた土手には食虫植物が手を広げて虫を待っている。それはモウセンゴケ (*Drosera rotundifolia*) が多かった。モウセンゴケなどは不思議に腺毛が密生する葉を持ち粘液で昆虫を捕らえる。

この道は鍵がかかっていて入れない。五宝木の人だけが鍵を持っているので、私と母ちゃんは鍵を開けてもらって入る。3kmほどいくと川が流れていた。すばらしく美しい川で、岩魚も見え隠れしていた。また、この山には寄生植物のヤドリギ (*Viscum*

album) があちこちのブナの木に見られる。今日は、キツネやカモシカに会った。

山遊びもたまには楽しいものである。最近では五宝木トンネルも完成して秋山郷へ早く行ける。この山道もいいものである。帰りに鍵を返し、夕暮れの赤い陽を受けさみしい林道を車で下りる。

山の湿原の癒しを発見

鍋倉山の山頂近くにはブナの木が多くあり、楷や桂の木や雪椿また、山菜も出ていて春はうれしいのです。

少し水の流れている沢を登り切ると深い川があった。そこに座禅草があり、私を呼んでいた。草を分けて広場にはいると、奥にブナ林と白樺が悠然と向かえてくれた。時々赤い雪椿の花が目をつけた。その一角に黄色の花が私の背丈ほどにゆれながらいっせいに咲き、水面にその姿を写していた。水の流れるに写る自分の姿とゆれる木の葉にこの世の美しさを感じ、「サラサドウダン」の花にキスしていた。

水中に動くものを見つけた。それはサンショウウオの子供だった。かわいくかわいく私の孫のようだ。この世にこんなに美しい光景を見た自分は幸せだった。

桜の心髄にせまる

桜で美しいものにオオヤマザクラがあり、長野県では高山村の山に多く見られ、太いものも増加しつつあります。最近植樹した飯山市の千曲川堤防道路沿いはまだ小さいです。

私が桜の中で美しいと思うものはミヤマザクラ (*Prunus maximowiczii*) です。花は小さく純白です。黒姫の頂上でミヤマザクラの写真にとっていた時、突然の大雨でビショ濡れになり、かあちゃんは滑って転んでいた。

3年前のこと万仏山に行った時、オオヤマザクラがあった。それまでソメイヨシノ (*Prunus yedoensis*) だと思いこんでいた。今考えると葉や花に毛がない事に気づいていた。またオオヤマザクラの葉は葉にある脈が他の桜より多かった。

国花の「さくら」を長野県にも増やしたい。有名な歌がある。

「しきしまのやまと心を 人間はば 朝日におう山桜花」

中野市赤岩の谷巖寺の「しだれ桜」はすばらしく、多くの人の癒しの地になっていて、長くこの世に残したい。

ミズチドリは美しい花

斑尾山のスキー場や尾根近くにたくさんの花や植物が咲いている。私はこの地が私の庭のように思い、時々母ちゃんに行く。山菜を少し採り、花は写真にとり自分なりに楽しむ。

サルナシ、ミズバショウ、オキナグサ、ヒメモチ、チゴユリ、ヤマホタルブクロ、イカリソウ、マムシグサ、アザミ類、ワラビ、ヒカゲノカズラ、ヤマブドウ、アケビ、イワナシ、ヨブスマソウ、ショウジョウバカマ、ヤマボウシ、トチバニンジン、ユキツバキ、キンラン、ルイヨウボタン、イヌドウナ、オヤマボクチ、ヒメニラ、ツノハシバミ、イタドリ、ミズチドリ、タラノキ、ウリハダカエデ、シシウド、ツルボ、オオヤマザクラ、ベニバナコミヤマカタバミ。時々ブナの林あり。

この斑尾山のうら山を行くと沼が3つほどあり、そこにトチバニンジンやミズチドリ (*Platanthera hologlottis*) が見える沼が美しく目をひいた。美しい白い花が咲き 50cm ぐらいで私の目を引いた。なるほど、これが私の望んでいたミズチドリだ。飛び上がってよろこんだ。母ちゃんに言うと、父ちゃん良く分かったね、だって。また少し先へ行くとヨブスマソウやタラの芽があった。その先にはあたり一面ワタスゲ (*Eriophorum vaginatum*) の群生に出合った。美しい場所に出合ったのだ。

春の花ミツガシワ

この白い花は秋山郷の奥に私を引きつけていた。前はこんなに咲かなかった。今年ほど見事な多さに、白の美しさに、うれしかった。私の心は花に恋を感じ



ミツガシワ

じていた。少し奥に行くとミズチドリ (*Platanthera hologlottis*) が咲いていた。ミズチドリはミツガシワより大きかった。足の悪い私は少し苦勞して歩いた。この湿原の水の綺麗な事。私達の飲む水道水もこんな清流ならいいなと思う。自然とは人間の体にも影響していると思い、心が病んでいた。そして自然を大切にする心が強くなっていた。

秋の実アケビ

里山には私の好きなアケビが実り、毎年取りに行き甘い実を食べる。やはりミツバアケビは良く実る。野沢温泉の旅館の中庭に私の好きな花を植えてみた。近いうちに行ってみたい。



ミツバアケビ

楽しいドライブは介護士と

今日は晴れたので、朝お風呂に入り、ドライブに連れて行ってもらった。木島平の大塚山へ行った。かねてから知っていたキツネノカミソリの咲く頃と思い、介護士と行ってみた。

山裾野へ着く。20分くらいすると赤く咲く花が見えてきた。

「大平さん、あれ、あれでしょう？」

その声に顔を向けると、あっちこっちに群生しているではないか。

「介護士さん、花一輪とって」「藪の中、私いやですよ」「そうか、じゃあ帰ろう」

「花の名前を教えてください」「キツネノカミソリだよ。おもしろい名前だね」

その人は、ケアマネジャーだった。

杖をついて近くまで行ってみると、花は小さいけれどきれいだった。8月の初めなので、あたりの草木は緑色で、私の目にはとてもよく見えた。

自然の山は楽しいな

シュンラン（春蘭 *Cymbidium goeringii*）が今年は多い。私の歩く、飯山の神戸には雪が少なく、雪の消えた後の枯葉のなかより「黄緑色の花」が見え、私の目はその輝く一点を見つめていた。そんな私をみつめる一匹の「カモシカ」がいた。雑木の間に茶色の体が少し見えた。ドキッとしたが、相手の顔がやさしそうなので写真に夢中になっていたら、いつの間にか見えなくなっていた。

少し行くとオキナグサ（*Pulsatilla cernua*）が咲いていた。すぐ母ちゃんに写してもらった。すぐうれしくなった。杖で車にもどり進むと近くの家の人庭にたくさんの鉢があり、見るとオキナグサの苗が芽を出していた。名前は知らないらしかった。私はだまって「めずらしいね」と言って帰ってきた。



キツネノカミソリの群生

キヌガサソウの美しい花に魅せられて

あの花に会いたくて、車いすで野沢の毛無山へ妻と友人に連れて行ってもらった。竹の子を取りながら林道を登りブナ林の中へ入った。

何年か前に見た時のキヌガサソウが今すぐく大きくなり、白い花をみごとに美しくたくさん咲かせていた。8枚の葉の大きさもすばらしい。友人は大きな一眼レフで写していた。母ちゃんは「父ちゃんどうしてこんな所知っているの?」と言いながら、竹の子（チシマザサ）の方に力が入っていた。

さらに近くの林ではシラネアオイ（*Glaucidium palmatum*）が紫色で迎えてくれた。皆さん「きれい」と言い、写真に写していた。

毛無山にこんな美しい花の癒しをもらい、私の車いすは砂利道をみんなにおしてもらっていた。



キヌガサソウ

飯山で目につく植物

植物名	分布	植物名	分布	植物名	分布
アキダミ（白）	五宝木	ジギバチソウ	万仏山	ヤマユリ	飯山市神戸、小賀北竜湖周辺、万仏山
アズマシロガサソウ	鍋倉沢	シヤマエンレイソウ（木島平城山）		ヨブスマソウ	御城山、高社山一部
イカリソウ	飯山市一門、千曲川東側赤色、西側白鳥	シヨロソウ	高社山	リュウキンカ	野沢林道
イワウチワ	万仏山、五宝木、鍋倉山	シュンラン	飯山市神戸（赤石山）（松尾山）、野沢湖周辺	リンドウ	山ノ内三カ月池
ウツギ（白）	鍋倉山沢	ショウキラン	鍋倉（塩の道周辺）	ワニグサソウ	大村神社、北郷
ウツボグサ	毛無山、神戸	シラネアオイ	鍋倉山、毛無山、茶屋池、桂池	ワレモコウ	竜王スキー場
ウラシマソウ	木島平御堂、飯山市神戸	ダイモンジソウ	小賀東神社、鍋倉山、駒山地区		
エビネ	高社山麓、飯山市神戸、万仏山	ツルニンジン	万仏山、飯塚山、山ノ内高瀬山		
エンレイソウ	御城、木島平一門	トガクシソウ	野々森		
オオヤマザクラ	飯山市塩越万仏山周辺	トキワイカリソウ	高社山近くで見ましたが、不明		
オオヤマレンゲ	野々森	トキバニンジン	鍋倉山、熊ヶ峰、御尾（赤の家は後）、万仏山、竜王山		
オクチュウジザクラ	御城地区	トリアシショウマ	万仏山		
オケラ	小賀	ナサバネシラン	北竜湖		
オヤマボクチ	御城山、北竜湖、竜王スキー場ゲレンデ	ヌエビネ	五宝木、北竜湖		
カタクリ	大洞の山々、小賀、北竜湖周辺、林津、飯山市一門	ナニワズ	小賀山		
キタザキイチゲ	針田地区	ノブキ	小賀杉並木		
キツネノカミソリ	御城地区	ヒツジクサ	桂池上の瓶池		
キヌガサソウ	野沢林道、室村五宝木	ウクジュソウ	御城、木島平		
キバナノアマナ	飯山市其郷	ウツロヤナソウ	御城、城山		
キンラン	高社山	フトヒムシロ	鍋倉山、外種		
クナ	御城林道	マニウヅギ（白）	鍋倉山、高社山		
クリンソウ	上ノ平〜カキノ平	ミヤマイラクサ	万仏山麓、小賀山		
コケイラン	鍋倉山	ヤナギスズナ	小賀（北竜湖）		
コミヤマカバミ	飯山市北、大川地区	セブシ根びアブラチャ	北竜湖周辺、万仏山		
サイハイラン	小賀林道	ヤマオダマキ	竜王スキー場		
サクラソウ	木島平沢	ヤマシキヤク（赤）	一部、城山		
ササユリ	飯山市森沢、駒山地区	ヤマシキヤク（白）	神戸、城山、万仏山、木島平沢、千石の山		
ザゼンソウ	鍋倉山	ヤマソソ	万仏山、駒山、高社		